

新年あけましておめでとうございます。今年の初めにあたり、沖縄県医師会報新年号を発刊できます事を大変嬉しく思います。年が改まり、何だか心までシャキッといたします。今回の会報では新年号らしく、まずは年頭所感、仲井眞沖縄県知事との鼎談が掲載されています。新年に対する特別な思いはありますが、山積する問題への対応など今年も医療界を取り巻く現状は厳しいものがあり、難しい舵取りが要求されます。明かな課題として浮かび上がっている事だけではなく、潜在化し深刻さを増している問題も多く、この様な課題に取り組むのは鋭い洞察力が必要ですね。更に必要なのは、勇気と信念を持って決断し実行する事だと思います。仲井眞知事との鼎談では多くの夢のあるお話を伺えて良かったと思います。医師会と県行政がお互いに尊重しつつ、協働する形は何とも頼もしい限りです。第125回日本医師会代議員会報告では東日本大震災義援金について、診療報酬改定について、TPP参加問題について、中医協構成メンバーについてなど活発な議論がなされ、中でも消費税問題は医業経営を直接危機に陥れかねない大変な問題である事を真栄田常任理事よりご報告頂きました。平成23年度全国医師会勤務医部会連絡協議会報告では、東日本大震災における医療支援について、次期診療報酬改定への課題について、消費税を含めた税と社会保障一体改革について、全国の医学部定員増に伴う医師養成の質をどの様に保っていくか、勤務医の労働や社会環境をどの様に改善していくかに関して活発な議論がなされた事を城間寛先生よりご報告頂きました。メディカルクラークやナースプラクティショナー、フィジシャンアシスタントなど医師のサポートをする様々な職種についての議論があったようです。しかし、医療費削減を企む厚生労働省の思惑にはまり、勤務医と開業医はいつの間にかお互いに対立する関係になされてしまった感があります。今こそ医師は一つとなって、この国全体の社会保障に関して自ら声を上げなくてはならな

いと思います。第42回学校保健・学校医大会では学校検診システムについて、学校心臓検診について、蛋白尿に重点をおいた検尿システムについて、脊柱側湾症検診について活発な討議がなされております。真栄田先生からは自閉症児の療育について、池田祐之先生からは肥大型心筋症の特殊な心電図所見について、比嘉睦先生からは被災地における子供の心のケアについての詳細なご報告がありました。学校医は現在あまりなり手が居なくて困っています。まして最近の行きすぎた権利意識の拡大はモンスター化した保護者によって、より学校医の立場は厳しいものになりつつあるようです。勤務医の過酷な勤務実態の事にも関連しますが、医師の社会的なステータスをもっと高める事が医師である事や学校医である事のモチベーションを高める事に繋がるのではないのでしょうか。平成23年度永年勤続医療従事者表彰式では242名の方々が表彰された事が佐久本嗣夫理事より報告されました。同じ施設に20年以上勤めるといっただけで大変な事です。沖縄県医療推進協議会では受診時定額負担、TPP参加問題などが協議されました。小児脳性麻痺に対するA型ボツリヌス毒素療法に関して大城聡先生よりご投稿頂きました。脳性麻痺による痙縮に対して非常に効果が上がる治療法ですね。顎関節症に関しては神農先生にご寄稿頂きました。我々も臨床現場でよく遭遇する疾患ですが、対処法など大変参考になりました。ほおづえをつかない事が大事とは、大変面白いですね。本の紹介では當銘理事より楽しく学ぶ身体所見—呼吸器診療へのアプローチを紹介して頂きました。理学所見を丹念にとっていく事が重要なのです。新春号恒例の新春干支随筆には沢山の投稿を頂きました。年男、年女を様々な気持ちで迎える皆さんの思いは非常に様々で、とても楽しく拝読させて頂きました。今年も沖縄県医師会報をご愛読頂けますよう、なにとぞよろしくお願い申し上げます。

広報委員 玉井 修